



プーリア州 Regione Puglia www.viaggiareinpuglia.it

州都：バーリ Bari



【州概要】

この州一番人気の観光地は、世界遺産でとんがり屋根の奇妙な建物トゥルッリが並ぶアルベロベッコ (Alberobello ←写真左)。他にもサン・ニコラ教会など中世と近代両方の顔をもつ大都市バーリ (Bari)、バロック建築の教会や建物群が美しいレッチェ (Lecce)、ギリシャ文化・芸術コレクションを誇る国立博物館が有名な南国情緒溢れる港町ターラント (Taranto)、アッピア街道終点地で東方への玄関口でもあるプリンディシ (Brindisi)、13世紀の堂々とした城が荒野にそびえる世界遺産カステル・デル・モンテ (Castel del Monte)、丘の上の白い街オストゥーニ (Ostuni) などの見所があります。長く明るい海岸線、荒野にたくましく生育するオリーブの木々、マルティーナ・フランカ Martina Franca 周辺のトゥルッリが点在する谷や平原など自然景観がとても個性的で印象的な州です。

【主要観光都市】

● **バーリ Bari**



(←写真左：ドゥオーモ内部)

西ローマ帝国滅亡後、875年から1071年までビザンチン帝国に支配された後、ロンゴバルディの支配下においてバーリの海運・商業の拠点が確立。十字軍時代には多くの人々が東方へと向かう主要な港でした。こうした歴史変遷を思わせる旧市街には、狭いエリアに40の教会と120以上の宗教施設があります。ノルマン様式のサン・ニコラ聖堂、ビザンチン様式の上に建てられたドゥオーモ

は、バジリカ式の構造と東方教会式の鐘楼を持ち合わせています。

● **レッチェ Lecce**

バロック建築の街として知られている街。現在残っている市街の街並みは、スペイン支配時代に建築されたものが主要となり、建築と彫刻がとても魅力的に重なり合う、独特な外観を作り出しています。使用されている石自体が石灰分を多く含むもののため、その白さと、微妙な光の当たり具合により、金色に変化します。レッチェのバロック建築の傑作として全土に知られているものとして、サンタ・クローチェ聖堂が挙げられます。また街の中心にあるドゥオーモ (写真右▶) の豪華な装飾も見ごたえがあります。



● ブリンディジ Brindisi

ローマを始点にするアッピア街道の終着地。天然の入江を形成した港は、ローマ時代からロンゴバルディ時代にかけて海上交易の中心へと発展し、その後スエズ運河の開通によって、インドへの船の経由地となっていました。ローマのアッピア街道終点の目印の円柱のうち一本が、修復を終えて元の場所にもどっています。歴史的に、十字軍遠征の跡を残した建築物があり、中でもテンプル騎士団に関わるものが多い。



● オートラント Otranto

www.comune.otranto.le.it/english_content/index.php (英語ページ)



この街は、千年もの間、東洋へ向かう船の発着地となっており、イタリア有数の主要港でした。またビザンチン帝国の支配下に置かれたのちも、ヴェネツィア人、ギリシャ人、アルメニア人などに襲われました。中でもトルコ軍の襲撃はかなりの犠牲者を出しました。街にある建築物は、こうした様々な文化が混ざり合ったものが数多くみられ、大聖堂には、アラブ・ゴシック様式のバラ窓とロマネスク様式、そしてビザンチン時代のフレスコ画の断片も見ることができます。



● オストゥーニ Ostuni

オリーブ畑が広がる高原が広がり、町は7つの丘の頂きに沿って位置しており、全体の壁が石灰で白く塗られており、白い家の町並がアラビア風のムードを漂わせます。中世の旧市街には15世紀のアラゴン時代の城壁がみられます。

【プーリア州の自然】



● トレミティ諸島・ガルガーノ半島

洞窟が数多くあるリアス式海岸のこの群島は、海洋自然公園に指定されています。群島の主な島は、サン・ニコラ島、サン・ドミノ島、カプライア島でなっており、そのうちサン・ニコラ島に唯一、住居地区が設けられています。

その他、石灰岩でできた広大な土地が広がるガルガーノ半島の国立公園もあります。

www.parcogargano.it/www.parcogargano.it/web/gargano/guida.html

またその他、プーリア州には多くの洞窟がありますが、その中でもイタリア屈指の大規模なものとして有名なカステッラーナ洞窟 **Grotte di Castellana** は、バリから比較的近く、内部を探検することができます。 www.grottedicastellana.it/



プーリア州の世界遺産

● カステル・デルモンテ (デルモンテ城) Castel del Monte

所在地： アンドリア市郊外 (プーリア州) バーリの西 55km。

登録年： 1996

当時南イタリアも統治していた名君として名高い神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒ 2世 **Federico II** がバーリ近くの高台に 13 世紀に建てた城。均衡のとれた八角形構造

で八角形の塔と庭があり、中世の軍事建築として大変独創的で壮観です。またイスラムと北方ヨーロッパゴシック的な建築様式が見事に調和をみせています。ユネスコサイト：<http://whc.unesco.org/en/list/398>



● アルベロベッコのトゥルツリ Trulli di Alberobello

所在地： アルベロベッコ (プーリア州) バーリの南東 55km。ターラントの北 45km

登録年： 1996

トゥルツリとは白い漆喰塗りの壁に円錐形のとんがり屋根が特徴的な、この地方のみで見られる一風変わった建物。モルタルなど接合剤を使わない先史時代から伝わる建築方法で造られた建物が現在も生活に使用されています。アルベロベッコの旧市街にはトゥルツリの家々が密集し、坂道が迷路のように続いており、おとぎの国のような雰囲気になっています。

ユネスコサイト：<http://whc.unesco.org/en/list/787>



● イタリアのロンゴバルド族：権威の軌跡(568～774 年)

I Longobardi in Italia I luoghi del potere (568-774 dC)

登録年： 2011

*同登録のうち、プーリア州にあるのもの：

モンテ・サントアンジェロの『サン・ミケーレ聖所記念堂』

Monte Sant'Angelo： Santuario Garganico di San Michele』

(プーリア州 フォッジアの北東 59km、バーリの北西 135km)

モンテ・サントアンジェロの『サン・ミケーレ聖所記念堂 Santuario Garganico di San Michele』は、ロンゴバルド族統治の 7 世紀から、大天使ミカエル崇拜の重要拠点となり、その後も西洋諸国での大天使ミカエル信仰に深く影響を及ぼし、ヨーロッパ各地に建設された有名なモン・サン・ミッシェルを初めとする何百もの聖ミカエル聖堂のモデルともなりました。

**ロンゴバルド王国 (イタリア語の音訳。ランゴバルド王国ともいわれる) は、568 年ゲルマン系ロンゴバルド族により建国され 6～8 世紀にイタリア半島を広く統治し独特の文化を発展させた後、774 年カール大帝により滅ぼされました。そのロンゴバルド王国の重要な権勢の足跡を示す 7 地域の要塞、教会、修道院などの建物が 2011 年に世界遺産として登録されました。ロンゴバルド族の建築スタイルは総じて古代から中世ヨーロッパへの変遷を示すもので、古代ローマの伝統、キリスト教的精神性、ビザンチン文化の影響そしてゲルマン系北欧様式を生かしています。

【交通情報・私鉄列車】

- ・ **Ferrovia del Sud Est** www.fseonline.it/
プーリア州内を結ぶ私鉄。アルペロベッコに行くには、バーリからこの私鉄に乗ります。
- ・ **FAL** (イタリア語のみ) www.fal-srl.it/
プーリア州都バーリと世界遺産の街バジリカータ州マテラを結ぶ私鉄。
- ・ **ガルガーノ鉄道** www.ferroviadelgargano.com/
バーリからガルガーノ半島方面を走る列車。
- ・ **Nord Barese 鉄道** www.ferrovienordbarese.it
バーリからプーリア州北部アンドリア、バルレッタを結ぶ列車・バスを運行。

中・長距離バス

- ・ **SITA** (イタリア語のみ) www.sitabus.it/
ヴェネト、トスカーナ、カンパニア、バジリカータ、プーリア州を運行する中・長距離バス
- ・ **Marozzi** www.marozzivi.it (イタリア語のみ)
プーリア州から、フィレンツェ、ローマなどを結ぶ長距離バス。